



～ 夢ひとすじに ～

# 宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 28 年度 第 4 号  
平成 28 年 7 月 1 日 (金) 発行  
さいたま市立宮原中学校  
メールアドレス

miyahara-j@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「悔し涙の想い！だからこそ今できること！」

校長 小林 広利

6月25日に行われた陸上日本選手権100m決勝でケンブリッジ飛鳥選手は、10秒16の記録を出し優勝した。2位の山縣亮太選手は10秒17、見ていてもどちらが勝ったのかわからないほどで、その差は、0.01秒だった。日本人初の100m9秒台の記録に最も近いと言われている桐生祥秀選手は、10秒31で第3位となったものの、オリンピック派遣設定記録を唯一突破していたため、リオデジャネイロオリンピック日本代表に即内定した。桐生選手は3位で代表内定という不本意な決まり方に、レース後の取材で悔し涙を流したという。きっと、その悔し涙は次への起爆剤となり、リオデジャネイロオリンピックで活躍してくれることと思う。

6月は、さいたま市内中学校運動部による学校総合体育大会が行われました。入賞した選手の皆さんや勝ち上がって県大会に出場するチームや選手の皆さん、おめでとうございます。また、水泳部はこれから学校総合体育大会を迎えますので、力いっぱい活躍してほしいと思います。多くの3年生にとっては、おおむね中学校生活最後の大会となりました。思った以上に力が出せた人、緊張してしまった人、応援に声を張り上げた人と様々でしょうが、大会前の朝礼で話をしたように自分の役割を精一杯果たすことができたでしょうか。自分が望んでいた結果が得られれば素晴らしいことですが、たとえ不本意な結果だったとしても、中学校生活での部活動の経験は、今後の君たちの人生の糧となるでしょうし、この経験を今後活かしていってもらいたいと願っています。

陸上部では、閉会式終了後、自分たちが汗を流した駒場陸上競技場のトラックを前にして、部員による反省会が開かれました。個々の入賞がたくさんあり、その結果、男子陸上部は総合優勝に輝くことができました。しかも4年連続の総合優勝と聞いて、多くのプレッシャーをはねのけてきた皆さんの力強さを感じずにはられません。反省会では、3年生が一人ひとりこの3年間の想いを友達や後輩にあてて述べてくれました。陸上部男子部長 曾田翔哉さんと陸上部女子部長 柳川愛絵さんからは、部員をまとめていくという大変さと大切さ、また多くのプレッシャーを感じたこと、そして陸上部の仲間とともにここまで歩んできた喜びを伝えるすばらしいメッセージがありました。また、個々の3年生からも、自己ベストが出た喜び！ 県大会への出場を逃した悔しさ！ 今までの練習で記録が伸びず苦しんだこと！ 部活をやめようと思った時期のこと！ 友達の支えに助けられたこと！ 先生や友達や家族への感謝！ などの話があり、中には途中で胸を詰まらせ涙をこらえながら、それぞれの想いが詰まったメッセージを述べてくれた3年生もいました。



今回の学校総合体育大会では、各運動部の多くの試合を観戦し応援してきました。県大会出場選手はさらに上位をめざして努力を続け、出場できなかった人の分まで頑張ってきてほしいと思います。チームとして、宮原中学校の仲間として、全員で県大会出場選手を応援していきましょう。また、残念ながら県大会への出場が叶わなかった3年生にとっては、最後の市の公式大会が終わったこととなります。しかし、陸上部の反省会を例にとりましたが、どの部活動においても今回の大会に向けて努力してきた皆さんが抱くその想いや悔し涙は、必ず次につながるものと信じています。

夏休みが近づいてきました。自由な時間も増える時ですが、中学校生活に悔いを残さないためにも、今できることをしっかりと計画的に行い、一日一日を大切に次につなげてもらいたいと思います。